

視覚障害者への図書館サービス：韓国の場合

— 情報環境の変化と点字図書館役割の変容 —

金 智 鉉

Library Services to the Visually Handicapped in Korea

— Changing of Information Environment and Role of Braille Library —

Jihyun KIM

抄 録

視覚障害者の情報環境が点字図書館からインターネットの視覚障害者用ウェブページへと大きく拡大した。この変化に点字図書館も対応してきた。初期の活字資料の加工、提供する役割に、インターネットを用いた新たな情報サービスの提供が加わり、点字図書館自ら情報を製作、提供する役割、さらには多種多様な情報の中で必要な情報へのナビゲータ的役割にまでその役割の幅が広がった。このように点字図書館は情報環境の変化に対して、点字図書館独自の役割を果たすことで、その存在意義を保っているのである。

キーワード：視覚障害者、点字図書館、情報環境、インターネット

1 はじめに

視覚障害者の情報環境が大きく変化した。つまり点字図書館を通してのみ活字情報が得られた環境から、インターネットを利用し一般人がアクセスする情報に同等にアクセスできる環境へと、視覚障害者が情報を獲得できる機会が拡大されたのである。今日では、図書館はもちろん多くの機関がインターネットを通して情報そのもの（つまり情報の検索や書誌事項だけでなくその内容まで）を提供しているものの、その方法は若干異なる。例えば国立中央図書館やそのほかの一般機関における視覚障害者への情報サービスは、一般のウェブページを、視覚障害者に利用しやすく作ることで、一般人と同じ情報を得られるようにしている。つまり一般のウェブページはグラフィックモードで作成するのに対し、視覚障害者用ページはテキストモードで作成することで、画面を読み上げやすくしている¹⁾。また一般のコンピュータでも利用できるように、ウェブページにBGMや音声案内を組み込んでいる²⁾。

このような視覚障害者の情報アクセス環境の変化によって、点字図書館の役割も変化してきた。初期の点字図書館は主に点字図書や録音図書を製作し提供していたのに対し、現在はインターネットを通してより多くのサービスを提供している。このような変容は、視覚障害者を取り巻く情報環境の変化により影響されていることには間違いないが、点字図書館はほかの機関

が提供するのとは異なったサービスを提供する³⁾ことで、独自の存在意義を保っている。

本稿では、韓国における点字図書館の役割の変容を、視覚障害者を取り囲む情報アクセス環境の変化に沿って再確認し、現在視覚障害者が情報を獲得できるウェブページの事例を通して各々の役割を検討することで、視覚障害者の情報環境を把握する。そうしたうえで、視覚障害者における情報環境の変化と点字図書館の役割の変容との関係を明らかにする。

2 情報環境の変化による点字図書館役割の変容

視覚障害者が情報にアクセスできる環境の変化は、大きくインターネット登場前と普及⁴⁾後、そして視覚障害者用ウェブページの登場に分けることができる。確かにインターネット普及後は、登場前に比べて、場所、時間、障害に制限されことなく活字情報へのアクセスが可能になり、視覚障害者にとって大きく情報環境が変わったといえる。しかしながら、一般人の情報アクセス環境に比べれば視覚障害者の情報獲得には多くの限界があった。その原因の1つは、インターネット利用環境が視覚障害者を考慮していなかったことにある。視覚障害者用ウェブページの登場により、視覚障害者は一般人と同等の情報アクセス環境に置かれ、同じ情報を得られるようになってきた。

よってこの章では、インターネットが登場する以前と、インターネットが普及した後、そして視覚障害者用ウェブページの登場といった情報環境の変化と、それに沿った点字図書館の役割変化を再確認する。

2.1 インターネット登場以前

点字図書館⁵⁾の主な役割は情報提供と情報加工であった。まず情報提供機能とは、図書館が所蔵している資料を提供することで、これは一般の図書館の機能と重なるものである。しかし、来館しにくい視覚障害者のために、郵送による情報提供という点字図書館独自のサービスも存在する。次に、情報加工機能とは、活字情報を視覚障害者が利用できるように点字や録音という形式に変換させることで、点字図書館以外では行っていなかった。たしかに点字出版社による点字図書の出版や公立図書館での対面朗読サービスも、情報加工と言えるかもしれない。しかし点字出版社の場合、視覚障害者個人に情報を提供するのではないため、視覚障害者にとって情報提供機関とはいえない。また対面朗読サービスも、公立図書館の所蔵資料に関する情報がなく、また直接に図書館に行かなければ情報が得られなかった。つまり視覚障害者の利用のために情報を加工しその情報を提供する機関は点字図書館だけであった。このため、多くの研究文献において、点字図書館の情報加工と提供の役割が大いに強調され、それに関する問題点や改善が提案された⁶⁾ほど、点字図書館の役割はその2つに集中していた。

2.2 インターネットの普及

インターネットの普及は視覚障害者の情報環境を大きく変化させた。もちろんインターネットが登場する以前から、すでに視覚障害者用読書機や点字印刷機、視覚障害者用PCといったIT機器が存在したものの、それらは情報加工の役割を向上させるもので、視覚障害者の情報

環境を大きく拡張させたものではなかった。しかしインターネットを利用することで、細かい情報の検索や他の図書館に関する情報、いわゆる点字図書館で得られなかった多くの情報に、インターネットを通してアクセスできる機会が広がった。よって、視覚障害者の情報獲得手段が一般人の情報獲得に比べ非常に貧しかった環境から、一般人がアクセスする情報に同等にアクセスが可能になった環境へと、視覚障害者の情報獲得環境は飛躍的に拡張した。

点字図書館が唯一の情報獲得機関ではなくなったものの、大きく2つの面で点字図書館は重要な役割を果たす。1つは、インターネットを用いた新たなサービスを提供する役割である。例えばインターネット上で資料の目録を提供したり、図書館ホームページを通じてさまざまな情報（例えば自館に関する情報、サービス情報、新着資料情報、関連機関に関する情報など）を提供する⁷⁾。もう1つは、情報を提供する公共の場としての役割である。ここでいう情報提供とは、主にインターネット接続環境を提供することである。インターネットが普及したとしても、視覚障害者用のPCとインターネット接続環境を持たなければ、インターネットでの情報を利用することができない。これらの設備を視覚障害者個人がすべて備えることは容易なことではなく、またインターネット接続環境を提供している公共図書館やPCルームといったところでも、視覚障害者用の設備は提供していない。よって点字図書館という公共の場に設備を備えることで、そのような環境を持たないより多くの視覚障害者が設備を共有し、インターネット情報を利用できるのである。このようにインターネットの普及によって、点字図書館の役割は情報提供や情報加工だけでなく、視覚障害者のニーズや情報環境の変化に対応した役割へと拡大されたのである。

2.3 視覚障害者用ウェブページの登場

視覚障害者の情報アクセス環境をさらに拡張させたのが、視覚障害者用ウェブページの登場である。なぜなら、情報のデジタル化が進み、インターネット上に多くの情報が流通するとしても、一般人用に作成されたウェブページでの情報提供はグラフィックといった視覚的情報が多く、視覚障害者にとってはいまだに利用しにくい情報だったからである。視覚障害者用に作成したテキスト中心のウェブページは、画面を読み上げやすくし、視覚障害者のインターネット利用をやさしくした。これにより、従来アクセスしても得にくかった情報を獲得できるようになった。

視覚障害者用ウェブページの登場で、点字図書館の役割はさらに変化しつつある。なぜなら視覚障害者は、点字図書館を利用するほかにも、電子図書館の利用、各種情報機関⁸⁾の視覚障害者用ウェブページの利用といったように、情報獲得の選択の幅が広がったからである。もちろん点字図書や録音図書を利用するには、いまだに点字図書館を通じるほかない。また、インターネット上ですべての情報を得られるわけでもない。それにもかかわらず視覚障害者は点字図書館以外にも、視覚障害者用ウェブページを通して情報を獲得することも事実である。このように視覚障害者にとって点字図書館は情報獲得方法の1選択肢となったものの、点字図書館は点字図書館だけの特別な役割を行っている。次の章では、点字図書館のウェブページとほかのいくつかの視覚障害者用ウェブページを事例として取り上げ、それらのウェブページの特

徴や提供する情報の種類、そして各々の異なる役割を検討する。

3 視覚障害者の情報環境：視覚障害者用ウェブページを中心に

本章では、視覚障害者の情報環境の事例として、点字図書館のウェブページ2つと、電子図書館のウェブページ、そして一般機関のウェブページをみる。

3.1 大邱大学付設点字図書館 (<http://dulvi.daegu.ac.kr/>)⁹⁾

このウェブサイトでは国内の点字図書と録音図書の統合図書検索システムを提供している。このため、全国視覚障害者図書館の資料目録を電算化する作業が2002年3月から始まった。全国視覚障害者図書館総合目録に関しては、1994年と1996年に、韓国視覚障害者図書館協議会によって作成されたものの、予算不足でその活動が続かなかった。このため、全国の点字図書館は総合目録がないまま、資料の重複製作が行われていたのである。この状況を打開するため、韓国視覚障害者図書館協議会は総合目録発行を決議し（2001年12月）、視覚障害者に情報提供する全国86ヶ所の機関で所蔵している資料を、重複する資料を除いて電算化することになった（2003年1月）。この「全国視覚障害者図書館図書総合目録」では点字本、一般冊子、CD-ROM、ARS（自動電話サービス）、インターネットホームページ（本ウェブサイト）といった形態で検索することができ、86ヶ所の機関が所蔵している点字図書、録音図書などの資料約8万種の題目、著者、出版社と所蔵図書館、連絡先といった情報が載っている¹⁰⁾。

このウェブサイトを利用することで、視覚障害者は全国にある点字図書や録音図書の情報と資料自体を得られる。よって、ネット上で原文が得られない資料、例えば文学書や教材、海外図書といった資料は、このウェブサイトで検索し、所蔵館を通じて資料を直接入手できる。また検索では、資料の基本的な書誌事項のほかに資料の形態も把握でき、必要によって点字図書と録音図書を区別して検索することができる¹¹⁾。現在総合目録は全国で44の機関が参加していて、各機関の新作資料に関する情報も統合的に検索でき、参加していない機関はいつでも追加で参加できるようにプログラムが製作されている¹²⁾。

3.2 韓国点字図書館 (<http://kbil.or.kr/>)¹³⁾

韓国点字図書館のウェブサイトは、視覚障害者のための工夫が多くなされている。まずは一番初めの画面でグラフィックやテキストのモード、また英語や日本語の言語を選択するようになっている。視覚障害者のためのテキストモードの画面はほかのウェブページでも見ることができるが、本ウェブサイトではグラフィックモードの画面でも音声案内を聞くことができる。画面にプレイと停止のボタンがあり¹⁴⁾、プレイのボタンを押すとその内容を読み上げるのである。このように視覚障害者用のソフトや機器がないパソコンでもウェブページ上の情報を得られるようにしている。

本ウェブページは、視覚障害者をより多くの情報へと導く、窓口の役割をする。提供している情報としては、資料検索以外にも、例えば障害者関連ニュースや行事、関連サイトの情報などがある。そのなかでも特に関連サイトでは、視覚障害者関連機関、全国の点字図書館、福祉

館、視覚障害者団体に関する情報とウェブサイトのリンクを提供していて、視覚障害者はこのページを通じてより多くのほかのサイトにアクセスできるのである¹⁵⁾。

3.3 国家電子図書館 (<http://www.dlibrary.go.kr/>)¹⁶⁾

国家電子図書館は国内の図書館を連携し情報化基盤を確立するために、1996年から推進されてきた。そして7つの機関、つまり国立中央図書館¹⁷⁾、国会図書館¹⁸⁾、司法院図書館¹⁹⁾、韓国科学技術院科学図書館 (KAIST Digital Science Library)²⁰⁾、韓国科学技術情報研究院 (KISTI)²¹⁾、韓国教育学術情報院 (KERIS RISS)²²⁾、農村振興庁農業科学図書館 (Korea Agricultural Science Digital Library)²³⁾が合同で、分担した資料をDB化し、統合提供している。2002年8月から障害者の情報格差を解消する一環として、国家電子図書館、国立中央図書館、国家資料共同目録システム、インターネット情報サービスの各サイトにおける視覚障害者用ウェブサイトを構築し、視覚障害者が同等に情報にアクセスできる機会を提供している。また2003年5月からは視覚障害者用サイトのテキスト型原文検索機能を向上させた²⁴⁾。

このウェブサイトにアクセスすることで視覚障害者は、一般人が検索して獲得する資料を、同じように検索して得ることができる。得られる情報は、様々な学術資料、学位論文、法律資料、判例資料、海外学術DBなど幅広い²⁵⁾。また、国家電子図書館の視覚障害者用ウェブサイトは国立中央図書館、国家資料共同目録システムの視覚障害者用ウェブサイトとそれぞれリンクしている²⁶⁾。特に勉強や研究をしている視覚障害者にとっては、学術情報を得ることができる、非常に有用なサイトだといえる。

3.4 Seoul市障害者総合ホームページ (<http://friend.metro.seoul.kr/main/index.php>)²⁷⁾

本ウェブページは、視覚障害者だけでなく障害者全体の生活全般に有用な情報を提供するホームページである。提供している情報としては、ソウル市の状況や制度、市の施策、税金、福祉関連、就職、各種生活に関する情報、関連機関の情報を提供している。生活情報は、障害者用具、地下鉄やタクシー、シャトルバスといった交通手段に関する情報であり、関連機関の情報としては、生活施設、各種リハビリ施設、障害者協会などがある。このウェブページを利用することで、視覚障害者は生活していく上で直接活用できる細かい生活情報も獲得できる。

また本ウェブページは、視覚障害者用の措置がなくても利用できるようになっている。ウェブページに接続した時点で、音声案内が始まる。もちろん音声案内は消すこともできる²⁸⁾。

4 視覚障害者にとっての点字図書館

以上のように、点字図書館はそれを取り巻く環境に影響されてきた。まず視覚障害者においては、学術情報は国立図書館や電子図書館、情報機関のウェブページ、生活および一般情報は一般の機関の視覚障害者用ウェブページ、点字・録音図書関連や視覚障害者関連の情報は点字図書館のウェブページといったように、それぞれ異なるウェブページで多様な情報を獲得できる機会が拡大した。これによって点字図書館の役割も変化してきた。前述のように、点字図書館は活字情報の唯一の媒体であった点字図書や録音図書の製作と提供中心の役割に、インター

ネットと関連した、またはインターネットを利用したより多くの役割が追加されたのである。

点字図書館の役割は変化しているものの、点字図書館が行っている役割には、視覚障害者が情報を獲得できるほかの機関やウェブページの役割とは区別されたものがある。なぜなら点字図書館は元々視覚障害者にサービスを提供する機関であったため、情報環境の変化に対応し視覚障害者のニーズに合ったサービスを行ってきたからである。例えば、インターネットが普及した時には、インターネットを利用して視覚障害者にサービスを行い、情報がデジタル化されインターネット上で流通する現在は、それらの情報を整理し、多くの情報の中で関連情報を利用しやすく提供している。

要するに点字図書館は、すでに存在する、あるいは要求された情報をただ単に提供する役割だけをしているのではなく、自ら情報を製作、あるいは加工し提供する役割、さらには多種多様な情報の中で必要な情報へのナビゲータの役割を遂行している。例えば自館製作の情報誌をネット上で提供したり、インターネット上で流通する多くの情報から視覚障害者や点字図書館と関連のある情報を収集、整理し提供することで、散在している情報にうまくアクセスできるように案内する。例えば韓国点字図書館の場合、週刊点字「青松（チョンソン）」を発行し提供している。これは1988年10月20日に創刊し、現在520号を発刊、全国の視覚障害者機関と個人に毎週1,500部ほど発送している。本雑誌は、視覚障害者に政府の施策、一般社会情報、生活に必要な事項を提供することで、彼らの情報利用活動に貢献している²⁹⁾。また、韓国点字図書館のウェブサイト1つを通じるだけでも、視覚障害者の福祉情報、生活情報、他の点字図書館、視覚障害者のための機関といった多くの視覚障害者の関連情報にアクセスできる³⁰⁾。

このように、視覚障害者に対する点字図書館の存在の意味は、たとえ視覚障害者の情報環境が変化し、それによって点字図書館の役割が変化するとしても、継続されるであろう。なぜなら、どの時代においても点字図書館は、情報環境の変化による視覚障害者のニーズの変化に応じた役割を果たすからである。また視覚障害者の要求に応えるサービスだけでなく、彼らのニーズを引き出し、それを超えた部分まで積極的にサービスを提供していくからである。

5 おわりに

視覚障害者だけに限らないが、インターネット利用の有無による情報格差は大きい。今後はこの情報格差を縮めていくことが重要だと思われる。最後に、韓国の障害者政策の「福祉5ヵ年計画」の中で、インターネット利用率が低い障害者の情報化増進に関する計画を紹介したい³¹⁾。

目的は障害者の情報化水準を高め、一般人と同等に情報にアクセスし活用することで生活の質を向上させる、いわゆるデジタル福祉社会を具現することである。計画は大きく6つの項目がある－情報化教育の拡大、情報化を通じた社会参加の拡大、情報アクセスの環境改善、情報利用の促進、視聴覚障害者の放送アクセス権の保障、そして情報化増進のための法や制度の改善である。それぞれの項目における主な計画としては以下のとおりである。

① 情報化教育の拡大

－教育の場で障害者インターネット利用率を向上させる：22.4% (02) →60% (07)

金：視覚障害者への図書館サービス：韓国の場合

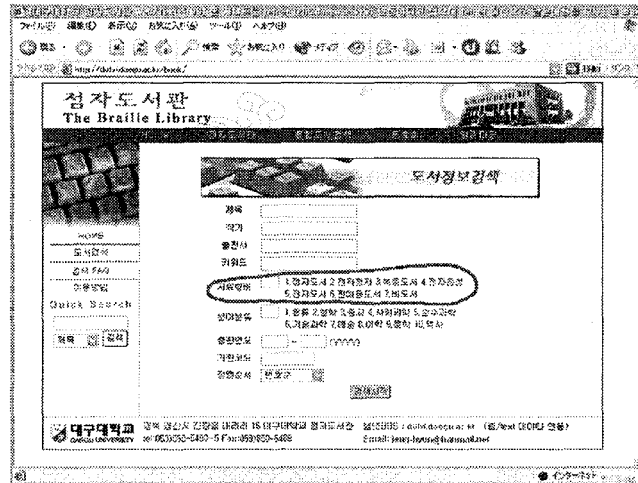
- －遠隔教育（オンライン教育）および訪問教育を拡大する
- ② 情報化を通じた社会参加の拡大
 - －障害者の就業が容易な IT 分野の職種を見つける
 - －障害者に適した IT 分野の就業を支援する：在宅勤務制の導入、障害者優先採用など
- ③ 情報アクセスの環境改善
 - －情報利用施設に、障害者利用に必要な機器を備える
 - －各障害者の情報アクセスに必要な装備およびプログラムを開発、普及する
 - －「障害者情報化研究センター」を設置する：多方面で障害者の情報アクセスを支援
- ④ 情報利用の促進
 - －情報通信機器を普及する：障害者のコンピュータ普及率56.4%（02）→80%（07）
 - －障害者のためのオンラインサイトを増やす
- ⑤ 視聴覚障害者の放送アクセス権の保障
 - －障害者の放送アクセスの支援を拡大する：画面解説放送および字幕、手話放送の比率を拡大
- ⑥ 情報化増進のための法や制度の改善
 - －「情報通信アクセス権勧奨（カンショウ）指針」を立法化する
 - －認証制度を導入する：障害者の利用に卓越した製品を認証する
 - －情報通信料金の割引制度を改善する：低所得の障害者に対する割引を拡大

注

- 1) 3章にあげている各ウェブページを参照。
- 2) 特にソウル市障害者総合ホームページ、その中にある“ソリ（音）図書館”のウェブページを参照した。<http://www.sorisem.net/mylib/voice/default.asp>
- 3) これについては3章を参照。
- 4) ここでいう普及とは、視覚障害者がインターネットを利用する意味を含める。
- 5) ここでいう点字図書館とは、独立した点字図書館のほかに、公立図書館の点字図書室や福祉機関の点字図書室をすべて含む。現在韓国には、63館の点字図書館がある。韓国点字図書館ホームページの中で情報を得た。なおウェブ上では点字図書館は64館と記されているが、1つの機関が重複しているので、実際には63館になる。<http://infor.kbll.or.kr/lib01001/index2.asp?text=no>
- 6) 韓国で1980年代から90年代にかけて行われている点字図書館に関する研究は、主に点字図書館の現状を把握し、問題点と改善を提案している。例えば次のような文献がある。설진화 1987, “시각장애자를 위한 도서관 봉사에 관한 연구” 연세대학교 대학원 석사학위논문、윤혜선 1992, “시각장애자를 위한 도서관 봉사에 관한 고찰” 『도서관학』 제6집
- 7) これについても、3章の点字図書館のウェブページを参照。
- 8) 例えば韓国科学技術情報研究院（KISTI: Korea Institute of Science and Technology Information）や、韓国教育学術情報院（KERIS: Korea Education and Research Information Service）といったような機関がある。
- 9) 大邱大学付設点字図書館（Braille Library built in Daegu University）のホームページ：<http://dulvi.daegu.ac.kr/>
- 10) この内容に関しては、次の2つのウェブページを参照した。
 - ① <http://friend.metro.seoul.kr/eyefocus/contents/7/1/1/20020325/3.html>

② http://www.pronovel.or.kr/news/index_view.html?no=3481

11) 大邱大学付設点字図書館の検索画面：<http://dulv.daegu.ac.kr/book/>



12) この内容については、大邱大学付設点字図書館の統合図書検索の利用方法を参照した。

<http://dulv.daegu.ac.kr/book/>

13) 韓国点字図書館 (Korea Braille Library) のホームページ：<http://kbll.or.kr/>



14)

15) 韓国点字図書館で提供している関連サイト情報は次のウェブページである。

<http://infor.kbll.or.kr/lib01001/index2.asp?text=no>

16) 国家電子図書館 (National Digital Library) のホームページ：<http://www.dlibrary.go.kr/>

17) 国立中央図書館 (The National Library of Korea) のホームページ：<http://www.nl.go.kr/>

18) 国会図書館のホームページ (National Assembly Library)：<http://www.nanet.go.kr/index.html>

19) 司法院図書館のホームページ (Supreme Court Library of Korea)：<http://library.scourt.go.kr/>

20) 韓国科学技術院科学図書館 (KAIST [Korea Advanced Institute of Science and Technology] Digital Science Library) のホームページ：<http://library.kaist.ac.kr/>

21) 韓国科学技術情報研究院 (KISTI [Korea Institute of Science and Technology Information]) のホームページ：<http://www.kisti.re.kr/kisti/index.jsp>

22) 韓国教育学術情報院 (KERIS [Korea Education and Research Information Service] RISS) のホー

金：視覚障害者への図書館サービス：韓国の場合

ムページ：http://www.riss4u.net/

23) 農村振興庁農業科学図書館 (Korea Agricultural Science Digital Library) のホームページ：

http://lib.rda.go.kr/main.asp?m_size=size_1024

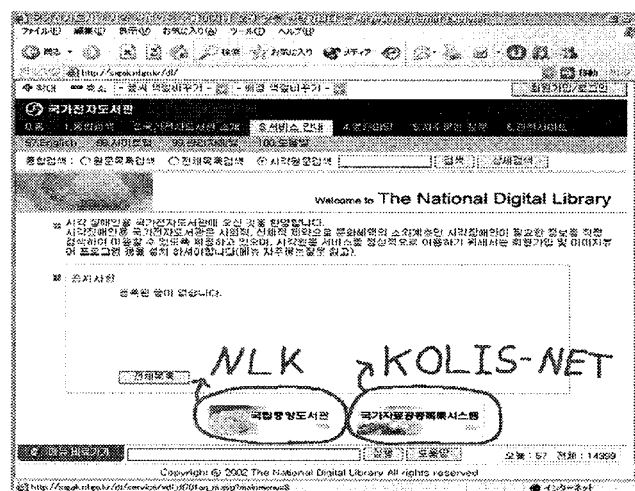
24) この内容については、国家電子図書館のホームページの中で、図書館紹介のウェブページを参照した。

http://www.dlibrary.go.kr/NEL/Introduce/Business.jsp

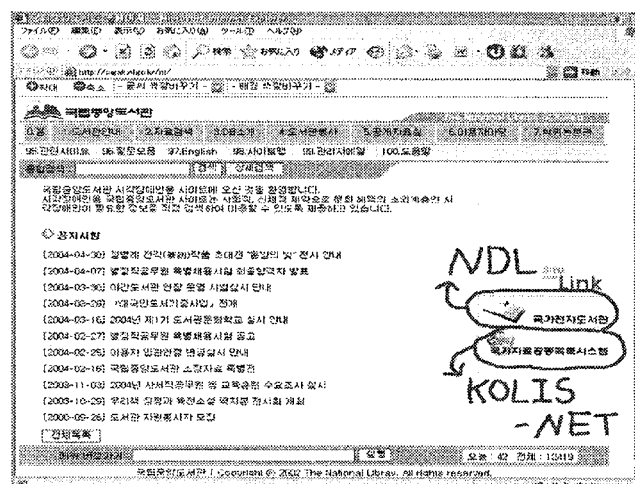
25) 国家電子図書館に参加している機関と提供 DB については、次のウェブページを参照。

http://www.dlibrary.go.kr/NEL/Introduce/Organization_01.jsp から http://www.dlibrary.go.kr/NEL/Introduce/Organization_07.jsp まで

26) 国家電子図書館 (NDL : National Digital Library) http://sigak.nl.go.kr/dl/

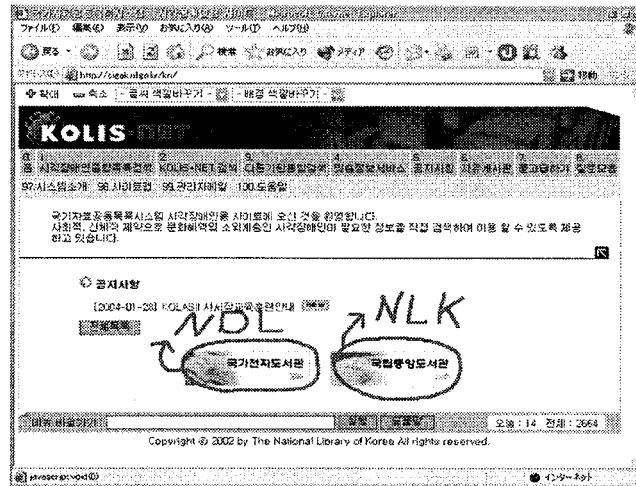


国立中央図書館 (NLK : The National Library of Korea) http://sigak.nl.go.kr/nl/

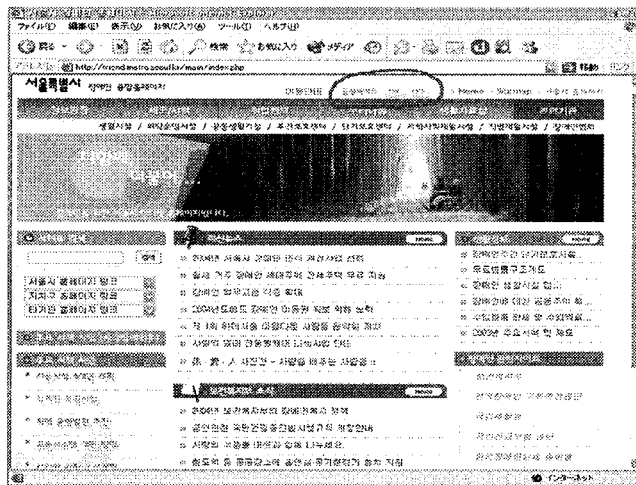


国家資料共同目録システム (KOLIS-NET : Korean Library Information System Network)

<http://sigak.nl.go.kr/kn/>



27) Seoul 市障害者総合ホームページ : <http://friend.metro.seoul.kr/main/index.php>



28)

29) この内容については、<http://kbll.or.kr/>の、「重要事業内容」から引用した。

30) これに関しては、<http://infor.kbll.or.kr/lib01001/index2.asp?text=no>の「関連サイト」を参照した。

31) この内容については、次のウェブページを参照した。

http://www.cowalk.or.kr/chnn/chx4/gdx1_idx29.htm